



解体されることになった長岡市厚生会館

蔵王山安善寺

◆編集・発行人◆
近藤龍弘

〒940-0052
長岡市神田町1丁目4番10
TEL.0258-32-2811

◆スタッフ◆

小林国二・小林善秋・高橋潔・加瀬由紀子
室賀清輝・近藤マリ子・高橋利春・近藤善信
後援・株式会社アサヒ
印刷・(株)北越時報社

ご家族の皆さままでご覧ください

『水』に思う

翠巖龍弘

八月末にはまたも日本各地で集中豪雨の被害がありました。私も平成十六年七月に新潟中越地方を襲った水害を思い出しました。その節は多くの応援を戴き、被災地の人々が勇気づけられました。改めて御礼申し上げます。今回の被災地の方々にも出来る限りの応援をしたいと願っております。

水はあらゆる生物にとってなくてはならないものです。また、水には私がなく、どんな容器にも収まり、氷や雪などとしての個体、水としての液体、雲などで見ることが出来る気体と変化し、それらによって私共は生活が出来、文化も生まれました。

『水の低きに就く如し。水は舟を載せ亦舟を覆す。水を差す。水清ければ月宿る。雨降って地固まる。雨霰雪や氷と変われども落つれば同じ谷川の水』等々、水や雨の諺も多く、また禅語にも『水流れて元海に入る。水急なるも月を流さず。水深うして波浪静かなり』等。俳句にも『五月雨をあつめて早し最上川(芭蕉)・水喧嘩負けたる夜の豪雨かな(吉村甘諸男)・正直に梅雨雷の一つかな(一茶)』など、四季のある日本、身近に大河・小川も多く、水を通しての文化、習慣、言葉が沢山あることに感じています。

このように生命にとっても、生活や文化にとっても大切な水も、洪水や土砂崩れなどとなると、あらゆるものに膨大な傷痕をのこし、生命も財産をも奪い去ってしまいます。水自身は私無く、海などで蒸発し気体となり、気圧などの関係で気体から雨となって大地に落ち、低い方へと自然に流れるだけですが、普通の降り方では私共に恩恵を与えてくれるものが、集中豪雨となると多大な被害をもたらします。

人間は欲が無ければ進歩がありません。何々になりたい、何々を夢みるの欲によりって頑張り努力もします。

『過ぎたるは猶及ばざるが如し』という諺があります。これが足らない、欲が深すぎると、道を誤ったり、他人を不幸に追追つたり、自分自身をも駄目にしてしまいがちです。

ちょうどよい欲、足りることを知る欲は目標に向かっての努力、生き甲斐を与えてくれ、水が潤いを与えてくれるが如く、充実した人生を送りやすく、切りのない欲望は集中豪雨の被害のように、大事なものを失いやすく、安心な充実した人生を難しくするのはないでしょうか。

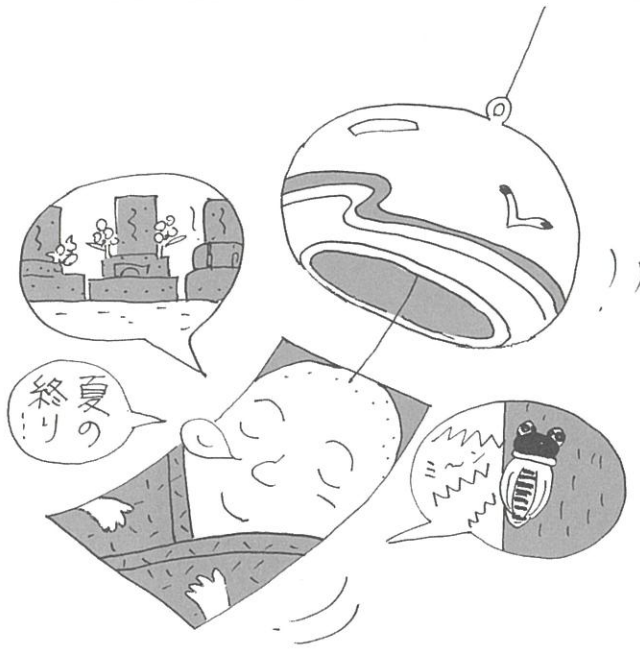
まっほう い おこ いず しよう とくどう
末法なりと謂うて 今生に道心発さずば 何れの生にか得道せん

【日々精進(五)】

四季があるから、感じることもいっぱいある

近藤真弘

昨年の夏に比べると少しばかり今年は過ごしやすかったように感じます。皆さんがそのようにおっしゃるのをお寺の周りに緑が多



さんによく「お寺は涼しいでしょう」と言われますが、夏の本堂は扇風機を回しても熱風が出てくるような、涼しいといえる場所ではない

印象を受けます。

何だかんだ言っても今年も暑い夏が終わり、これからは過ごしやすい秋の季節がやってきます。夏と言うのは暑くて過ごすのには大変な季節ではありますが、昔から夏の終わりと云うのは少し寂しい感じを受けます。小学生や中学生のときは、夏休みがあり夏は大きいに遊ぶ時期だというイメージがあつたのでそれもわかりませんが、この年齢になっても夏の終わりは寂しい気がします。

お盆の時期はお寺がお参りの方でも賑わいます。十三日の夜には小さな子供が持つ提灯の灯りやお墓の前の蠟燭の灯火で境内は明るく、人の流れが絶えず祭りのような感覚にもなります。おじいちゃんやおばあちゃんに連れられて小さな子供がお墓の前で手を合

わせている姿を見ると微笑ましい気持ちになります。ご先祖様のおかげで家族が一同に顔を合わせ、そのご先祖様に感謝するためにお墓にお参りに行く、とても素晴らしい日本の風習だなあと



改めて思いました。そんなこともあり夏が名残惜しい気持ちがあるのかもしれませんが、よく考えると夏以外にもそれぞれの四季が終わるときは名残惜しい気持ちになるようにも

思います。やはりそれは、それぞれの季節にしか出来ないことや感じられないことがあり、それらがまた来年かと思うと寂しさを感じるのではないかと思います。考え方によってはそれぞれの季節でそれぞれの楽しみがある日本のはっきりとした四季の移り変わりというのはいずれも情緒があり名残惜しさと共に次の季節への楽しみもあります。近年ではいろんな面で発達して夏でもスキーが出来たり、冬に室内のプールに入れたり、食材でもあらゆる食べ物が年間を通して食べることが出来ます。それはそれで大変便利な世の中ですが、その季節に出来ることを楽しみ、旬のものを旬の時期に食することが一番ではないかと思えます。今やらなければ後悔する、今、食べなければこの味は来年まで食べることが出来ない、そんな今しかない時を大切にすることが出来るのも、それぞれの季節があることの醍醐味ではないかと感じました。

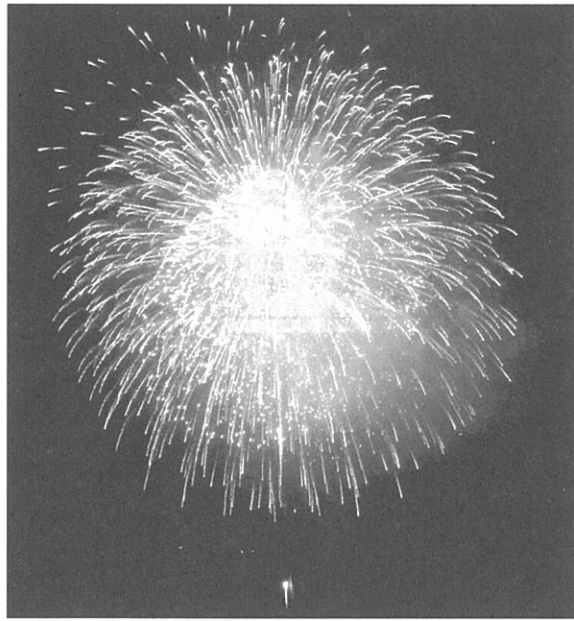
静かな池に小石を投げよ 円い波紋が大きく広がって どこまでも延びてゆく 人間の考えも行いも ひとたび動いた心の波は 永遠にのびてゆく 正しい波 喜びの波の 源をつくらう 善悪ともに

メッセーシ花火に 全ての思いを込めて

平澤清二

「三月十七日、大好きなお父さんの誕生日に空に旅立ったお母さん。」

今年も一緒に花火を見れると思っていたのに。成人式の晴れ姿、花嫁姿、孫の顔、まだまだ一緒にいて、見せてあげたかったのになあ……。でも、お母さんなら、そのひまわりみたいな笑顔ですつと見守ってくれるよね。お母さん、お父さんと結



婚して私達姉妹を生んでくれてありがとう。平澤美香さん、真梨奈さんから大好きなお母さんに感謝の気持ちを込めて打ち上げ開始でございます。八月三日の長岡の大火火の幕開けに、娘達二人が亡き妻のためにメッセーシ花火を上げた時のことです。娘達、親族、友人、知人

等々五十人程度の仲間達と一緒に屋形船で花火見物をいたしました。メッセーシ花火を打ち上げることが決定した時から、娘達はもろん私には当日まで内緒で「お父さん楽しみにしててください」とのことでした。娘達は限られた字数の中で、思いの全てを表現したかったようで、何度か修正をかけていたようでした。私はその日が来て、はつきりそのメッセーシを聞いて思いました。いつもは仕事で何かと留守にしがちでした。妻は一人で子育てをしないではいけない環境ではありましたが、充分親としての責任を果たして、子供達を育て上げてくれました。そして素敵な立派な、しつかりした子供に育ってくれたなあと、その時つくづく感じました。そして子供から亡き妻に思いの全てが伝えられたと思えました。

安善寺のこれからの行事予定

◎秋期火防稲荷氏尼尊天大祭
九月十八日(木)午前十一時～

・氏尼尊天祈祷大般若稲荷堂
・茶話会(客殿)

◎秋期彼岸会
九月二十日(土)午前十時半～

実際の花火は、もう涙ではつきりと見ることはできませんでしたが、一緒に行った皆さんから「本当に奇麗な素晴らしい花火だったよ」と、そして「感動したよ」と。メッセーシ花火の打ち上げが終わると屋形船に乗船している人、全員から一斉に拍手が沸き起こりました。

私もすごい感動の思いでいっぱいになりました。私も娘達二人に「お母さんきつと喜んでくれるよ。ありがとう」と言葉を掛けようと思いましたが、言葉にならず、震えている肩を精一杯抱いてねぎらつてやることしか出来なかった、真夏の夜の一日でした。

・彼岸入り法会(本堂) 法話

・茶話会(客殿) 九月二十三日(火)午前十時半～ 彼岸お中日法会(本堂) 法話

・茶話会(客殿) 九月二十六日(金)午前十時半～ 彼岸明け法会(本堂) 法話

・茶話会(客殿)

◎第十二回KAKA笑の会
十月二十四日(金)午後六時半～ 会場 安善寺本堂

大本山總持寺の典座和尚 小金山泰玄老師の作られた精進料理を味わっていただきます。「人数限定」

◎釈尊成道会
十二月八日(月)午前十一時～ 成道会法要(本堂) 法話

・お斎(客殿)

◎山内大掃除

十二月二十日(土)午前八時半～ 本堂、位牌堂、稲荷堂、客殿の大掃除

他に左記の行事があります。お気軽にご参加ください。

◎坐禅会
午前六時～七時(坐禅堂) 了茶話会

◎写経会
午後一時～二時半了茶話会

◎無碍智俳句の会
午後一時半～三時了茶話会

※日程などはお問い合わせください。

お別れ

(平成二十年七月～八月末)

須崎アキノ様 七月二日寂

柏崎市朝日ヶ丘

八代秀幸様 七月二日寂

長岡市三島町

林佐奈恵様 七月十四日寂

長岡市高町

若林 聡様 八月廿二日寂

長岡市千手

ご冥福をお祈りいたします。

心と体が元気になる 野の花カフェ開催します！

浅野ゆうこ

祖父母の菩提寺である安善寺様の季刊紙に投稿させて頂いていただくことをとてもうれしく光栄に思います。

私は長岡駅ビルで、お花の店「花の駅・トリア」を営んでおります。小さい頃、よく福島江の土手で遊んだのですが、そこに咲く野の草花が大好きで、いつのまにか、お花の仕事に就きました。

お花で元気になる

お花の仕事をしています。感じることはありません。それは、体調が悪かったり、気分が落ち込んでいたりときに「お花をさわっていると心も体も回復してくる」ということ。花教室に通う生徒さんたちも同じことをおっしゃるので、これは間違いありません！ きっとお花の香りや「気」が、私たちを元気にしてくれるのでしょね。無心に咲くお花を見てみると、けなげに咲いている



なあ…と、とてもいとおしくなります。命のあるものをいつくしむ温かな気持ちがかむくむく湧いてきて、硬くなっていた心身がやわらかくなっていく気がします。そしてふと、「私もお花も同じ命なんだ！」と、自身をいつくしむ気持ちをとりのどし、そうすると、

野の花の会が実現！

そんなことをみなさんと共有したくなって、「ココロとカラダが元気になる・お花の会」を開催できないかな、と思っていたのですが、偶然協力してくださる方々

にめぐり合って、九月から月に一度開催することになりました。ネーミングは「野の花カフェ」。

安善寺で開催したい！

安善寺様のようなすてきなところで開催したいな…と、おそろおそろご住職様と奥様にご相談すると、笑顔で快諾くださいました。うれしい！

野の花は、無農薬で露地栽培をしている栃木の花農家さんが直送してくださいます。お日様に向かつてすくすく育った野の花たち。虫食いのあとがあつたり、曲がっていたりするのですが、それがとても可愛いのです。

そしてスイーツ(デザート)は、料理研究家・塚越尚美さん(横浜在住)の手作り。尚美さんのスイーツは無農薬、無添加の材料を使い、一つひとつ丁寧に作ってくだ



さるのでココロもカラダもほっこり元気になります。(先日いただいた葡萄のゼリーは絶品でした！)

お花のいけ方はオアシスや剣山を使わずに、自由に合

わせていきます。「見せるお花」ではなく、「心地よくいけるお花」なので、初めての方でも充分に楽しめます。

私は野の花が大好きです。可憐でのびやかで力強い。その大好きな野の花と、おいしいスイーツ、すてきな安善寺様の組合せが実現して、とても幸せな気持ちです。

みなさまもぜひ「ココロとカラダが元気になる・野の花

「野の花カフェ」ご案内

日時 九月二十五日(木)
午後一時半～三時
午後七時～八時半
場所 安善寺様
参加費 四千元(お花代・お茶とスイーツ込)
持ち物 はさみ

お申込・お問い合わせ

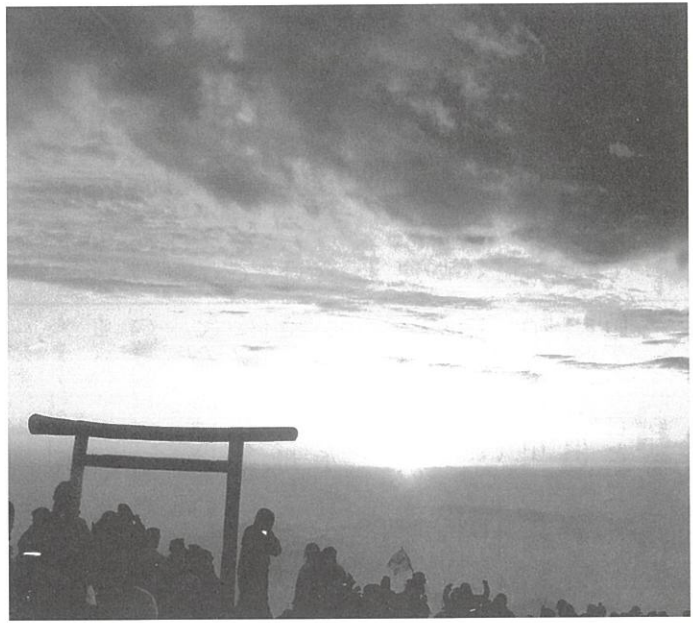
◎花の駅・トリア

電話02558371930

◎浅野ゆうこ

電話08056713332

※月に一度開催予定です。



感動！また感動！ 富士御来光の旅

間野 隆

ヘッドランプをたよりに歩き始めました。しばらく行くと登山者の流れがピタリと止まりました。二・四分待つて歩き始め十歩くらい歩くとまた止まる。まるで車の渋滞、いや人の渋滞です。いつになったら山頂に着くのかと思いつながら歩いていくと、岩場に着きました。この岩場は三メートルくらいです。一人しか通ることが出来ない狭い岩場、ここが渋滞の原因でした。私の前を行く団体さんの山岳ガイドが「遅い人は左側、早い人は右側を歩くように」と大声で指示をしていました。

本日の日の出は午前四時五十二分。空はまだ暗く、土産屋・食堂の灯りが煌々と照らし登山者を迎えています。建物の中・外はもの凄いい人達で前に進むことも大変です。仲間とはぐれ集場所の目印を探しながら人垣のなかを前進また前進、やっと集場所につきました。あまりの人の多さにみんなビクビクしました。

山頂の気温は四度で、黙って待っていると全身に寒さを感じました。東の空が少ずつ明るくなって、雲海での日の出、御来光です。太陽が昇るに連れて阿弥陀如来様の後光のような太陽の光、感動です。遠くでパンザイの声が上がり、ウェーブのように伝わってきました。こんな素晴らしい御来光は初めてです。感動につく感動。富士登山に誘ってくれた仲間へ感謝します。一時の感動が終わり、静

けさが戻ってきました。忘れていた寒さと疲労が全身に伝わってきます。山頂の御釜を回って下山することになりました。御釜巡りと下山組みに別れ、私は御釜を一周することにしました。約一時間のコースです。歩き始めてすぐ頭痛と吐き気、激しい胸焼けに襲われ、足取りも重く、仲間ともはぐれ気力で黙々と歩きました。無人化された富士山観測所にたどり着いても体調は最悪。そこでようやく仲間と再会し、私の体調を話すと高山病とのこと。仲間より酸素をもらい少し楽になりましたが、食欲はまったく無く、早く今晚の温泉宿に着きたい思いでいっぱいでした。チョコと飴でなんとか体力をつなぎ一周して下山に入りました。

富士登山の話を持ちかけられたのは六月中頃のことでした。日本一高い場所からの御来光を臨むことは私にとってありがたい話の反面、不安もよぎりましたがお願いすることにしました。八月九日午前二時、九合目の山小屋は仮眠を終えた人達の準備でゴった返していました。山小屋で朝食の弁当をもらって準備完了。小屋を出た途端あまりの人の多さにビクビクしました。

人の流れを表すヘッドランプの明かりが時折見え隠れしながら延々と続いています。ふと昔祖母が私に話してくれたキツネのちようちん行列の話を思い出しました。きっと祖母はこんな光景を見て私に話をしたのでしょうか。それにしても人、人、人です。みんな私と同じような思いで山頂を目指しているのでしょうか。山頂へ向かう列の中に入り暗闇の中、

ヘッドランプをたよりに歩き始めました。しばらく行くと登山者の流れがピタリと止まりました。二・四分待つて歩き始め十歩くらい歩くとまた止まる。まるで車の渋滞、いや人の渋滞です。いつになったら山頂に着くのかと思いつながら歩いていくと、岩場に着きました。この岩場は三メートルくらいです。一人しか通ることが出来ない狭い岩場、ここが渋滞の原因でした。私の前を行く団体さんの山岳ガイドが「遅い人は左側、早い人は右側を歩くように」と大声で指示をしていました。

山頂の気温は四度で、黙って待っていると全身に寒さを感じました。東の空が少ずつ明るくなって、雲海での日の出、御来光です。太陽が昇るに連れて阿弥陀如来様の後光のような太陽の光、感動です。遠くでパンザイの声が上がり、ウェーブのように伝わってきました。こんな素晴らしい御来光は初めてです。感動につく感動。富士登山に誘ってくれた仲間へ感謝します。一時の感動が終わり、静

けさが戻ってきました。忘れていた寒さと疲労が全身に伝わってきます。山頂の御釜を回って下山することになりました。御釜巡りと下山組みに別れ、私は御釜を一周することにしました。約一時間のコースです。歩き始めてすぐ頭痛と吐き気、激しい胸焼けに襲われ、足取りも重く、仲間ともはぐれ気力で黙々と歩きました。無人化された富士山観測所にたどり着いても体調は最悪。そこでようやく仲間と再会し、私の体調を話すと高山病とのこと。仲間より酸素をもらい少し楽になりましたが、食欲はまったく無く、早く今晚の温泉宿に着きたい思いでいっぱいでした。チョコと飴でなんとか体力をつなぎ一周して下山に入りました。

合目あたりから体調が回復してまいりました。体調が回復したら急に暑さを感じてきました。気温二十六度、山頂で飲めなかつた缶ビールを一口、旨い、本当に旨い。再び五合目の御殿場をめざして下山。古傷の膝に痛みを感じ始めましたが、エアースロンパスをスプレーしながら御殿場へ御殿場へと下つていきました。十時二十分、御殿場到着。先に下山した仲間が広場で車座になって宴会をしていたので即参加。全員が揃い迎えのバスに乗りました。十二時に御殿場を出発して河口湖温泉へ。早く温泉に入つて疲れを取ろうと思いつつ眠ってしまいました。今回の富士山登頂、無事下山出来たことで、私もまだパワーが残っていることが判りました。素晴らしい機会を与えてくれたみなさまに感謝します。

うその中にうそを探すな ほんとの中にうそを探すな ほんとの中にほんとを探すな うその中にほんとを探せ

仏教判らずして どの世界も語れない

株式会社紅屋重正 代表取締役 椿紀代司

つい先日、益の帰省客で賑わう駅ビルにあるレストラン街のラーメン亭で昼食をとったその時、向かい合わせの席で三歳の坊やが運ばれてきたラーメンに「戴きます」と合掌し、食べ始め、食べ終わると「ご馳走さまでした」と、またまた合掌した。母親は二十歳代の娘さんで自らも籠をたれているのに、は感嘆した。まだ世の中見捨



てたものではないな…と身につまされる思いであった。きつと祖父母から子に、子から孫に伝承、育んだ躰であらうと思う。

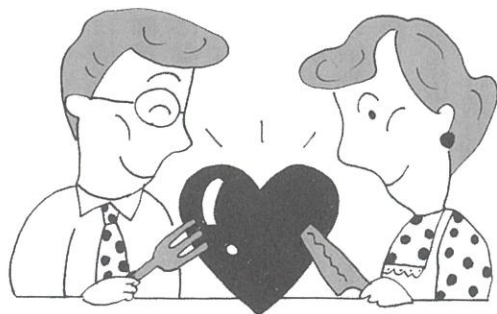
戦後、日本の家族制度が崩壊され、いつしか自由と平等の履き違いで毎日暗い報道が溢れる中、「坊や偉いね」と、当たり前のことが賞賛に値する今日となつてしまつたことにも気づかされた。長岡が生んだ山本五十六

と思う。見る側は簡単にやっぱりダメか、予選落ちか、だらしないと勝手なこと言っているが、選手にしてみればまさに五十六の修行に等しいのではなからうか。

甲子園の全国高校野球しかりである。選抜され参加するまでの過程での苦勞、流した汗と涙は貴重な体験であり、経験した本人にしか身につかないと思う。勝敗よりも、戦い終わった選手の澄んだ目と満面の笑みは何物にも代え難い感動である。

「あなたは部活は何をやつていましたか?」。何が良い悪いとは言わないが、団体スポーツが特に良いようだ。礼儀をわきまえ先輩を敬い、しつかり挨拶ができ、我慢強く、明朗闊達で健康であるからだ。今日、我慢ができない、根気がない、すぐ切れる人間のなんと多いことか。いかに修養がたりていないか。嫌なこと、利のないことは避けて通ろうとずる癖が身に染みついてしまつているのではないだろうか…。

「仁者は難(かた)きを先



にし、獲(う)るを後(のち)にす」論語 雍也第六
骨の折れる仕事を進んで引き受け、利益はあまり問題にしない、これ仁と言う、とある。まったくこの格言の逆を行っているのが今の世相ではなからうか。考え直したいものだ。

食を一つとっても「食らえどもその味わい知らず」。精神を集中してやらないと何事も身につかず、心が他の

禅寺における食事を作る役目の心得を記したもので、今日でも広く料理に携わる者として心正すべきものが少なくない。道元さんは、調理は尊い重要な仕事であるというこ、心を込めて調理・炊事に当たらねば人を養い、心を作る料理は出来ないと言え、調理に当たること自身が修行の場であると教えておられます。また、日本料理と自然が説かれています。魚、野菜、鳥、牛にしる、自然が作った土、あるいは海、水が育て、そして我々の中に入るわけですが、それ以前に神、あるいは仏の力というものに、自然を大きくしてもらつたと言う教えを知らずして料理を作るな、食べるなど教えておられます。

料理も菓子も空腹を満たすだけのものではなく、心を満たせる料理、菓子が大切なのです。それでこそ合掌し「頂戴いたします」「ご馳走さまでした」の心からの感謝が沸くのだと思う。道元を究めるは至難なこと。仏教判らずしてはどの世界も語れないですね…。合掌

誰人か初めより道心ある 只かくの如く発し難きを発し 行じがたきを行ずれば 自然に増進するなり 人々皆仏性あり

旬歌 愁灯

[その十九]

月の砂漠

加瀬由紀子

どうなることかと騒がれた北京オリンピックも終わった。私が一番感動したのは、人種、宗教を問わず、「チベットに自由を」と声を挙げた大勢の人々が世界中に存在したことである。

日本でも聖火スタート地点の長野の善光寺が中止を表明。リレー当日、チベットの僧侶弾圧に抗議、読経を捧げる映像にさすが仏門の大御所と、感銘を受けた。

北京オリンピックや昨今の福田首相退任で影も薄れてしまったが、洞爺湖サミット(G8)の果たした意義は大きかったと思う。アフリカ諸国への支援、地球温暖化、石油化学製品の高騰、代替エネルギー等への踏み込んだ討論はすべての地球人への問題提起でもあった。枯渇する資源、食料問題は、猶予ならぬ事態なのに全参

加国の合意に至らなかったのが、はがゆい。

私も買物にはエコバッグ、箸はマイハシを使用するよ

うに心がけているが、この際もつとエコポイントアップを心がけることにした。

そして市内の移動には自転車を使用することに決めて、娘に話したところ彼女は早速自転車を購入、私にプレゼントしてくれたのだ。

「ママチャリじゃアスリートの名がすたる」と手にした赤い自転車は、カナダのルイガノ社製。ヘルメットは、イタリアのジロ(二週間かけてイタリアを廻る自転車レース「ジロ・デ・イタリア」は今年で九十一年目、ヨーロッパの自転車

熱の高さをうかがわせる)。自転車用サングラスに手袋、ザックまでキメると、七段

消費とガソリンの節約。昼間の暑さに汗を拭きながらもエコ生活は順調に推移している。さらに驚くのは、自転車仲間が結構いることだった。「私も同じM.V.I.よ」と声をかけてきた女性。「健康と環境のために車一辺倒やめて、僕も自転車買おうよ」と大学の教授。「ウエ



変則の使い方をマスターせざるを得ない。ともかくも十五分こげば、ご飯茶碗一杯のエネルギー

アもキメて、ツール・ド・長岡なんぞ開催するか」とのたまう輩まで現れ、娘のトライアスロン・バイク仲間

間の失笑を買っている。フィットネススクラブの帰り、月明かりの信濃川の土手を娘と自転車で走った。

「月の砂漠を 是るばると 旅のらくだが 行きまして 金と銀とのくら

おいて 二つならんで 行きました。」「広い砂漠を ひとすじに 二人はどこへ 行くのでしよう おぼろにけふる 月の夜を 対のらくだは とぼとぼと 砂丘を越えて 行きました 黙って 越えて 行きました。」

「おかあさん、遅すぎるよ! 何ブツブツ言つてんだよ!」我が長岡高校の先輩、川上四郎画伯描く「月の砂漠」のイメージはたちまち現実に引き戻される。

月といえば、人差し指でドレミしか弾けなかった同期の友人は、二年間毎日練習を重ね、ベートーベンの「月光」を弾けるまでになった。コンサートも計画しているらしい。

最近の私は、スポーツジムのフリーウエイトゾーンにはまってしまい、スクワ

ッド、ベンチ・プレス、デッド・リフトなどに挑戦している。私の担当のコーチ(ボディビルダー)から「大会があるのでぜひ応援に来て」と頼まれ、もの珍しさも手伝って初めてボディビル大会を観戦することになった。すさまじいウエイトコントロールと筋肉づくりに

驚嘆、私の知らないスポーツの世界が自転車に続いてここにもあった。「トライセップス」「アブドミナル・アバンド・サイ」「バック・ダブルバイセップス」などと筋肉の部分のいかに美しく見せるかの、きめポーズに場内から声援が飛ぶ。

スポーツ評論家の二宮清純氏は北京オリンピックを総括、「メダル大国を目指すのは権力国家にまかせて、日本は西欧諸国のようなスポーツ国家を目指すべき」と語っている。成績至上主義はもう結構、多様なスポーツや芸術、学問を幾つになっても誰でもチャレンジし、楽しめる環境の整備から真のメダリストが出現するに違いない。

縦い身を惜みたもうたりとも かなふべからず ついに捨てて行く命ちを 一日片時たりとも仏法のために捨てたらんは 永劫の楽因なるべし

可愛い肉球が自慢です！

ペコのひとりごと



今年各地で雨の多い年です。今日も東海・関東地方を中心に大雨の被害が出ている様子。最近シトシト雨が少なくなつたような気がします。私がペランダでくつろいでいても、いきなりザーと雨が降ってきて家の中に逃げ込むのが大変

です。今年各地で雨の多い年です。今日も東海・関東地方を中心に大雨の被害が出ている様子。最近シトシト雨が少なくなつたような気がします。私がペランダでくつろいでいても、いきなりザーと雨が降ってきて家の中に逃げ込むのが大変

ね」と褒められたくらい少しピンクがかつたきれいな肌色です。ボブはと言うと黒色をしているのです。最近鳥の羽が部屋の隅(何時も決まった場所なのですが...)に散乱していたり、尾を切り取られたトカゲが廊下に行ったりするので。そのトカゲが動かないのです。からお母さんがボール紙にのせて、そつと外に持っていかうとしたら、いきなりボール紙の上で動き出すではありませんか。お母さんはビックリして、載せているボール紙ごと放り出してしまいました。

そんなボブは泣き方だけは俗に言う「猫撫声」と言われるとても可愛い声で泣くのです。行動もそうあって欲しいのですが、まだまだ悪戯は続きそうです。

ところで、今年の長岡花火は、来年NHKの大河ドラマの舞台が長岡を中心とする新潟県中越地区に所縁の深い戦国武将「直江兼続」に決まったことを記念して、「天・地・人」花火の打ち上げがあり、時折二階で休んでいても大きな音と窓ガラスには、いろんな色が明るく光つてみえるようでした。そんな私でさえ少し興奮したくらいですから、今年初めて家族全員揃って土手まで観に行つて帰ってきた皆は、それは賑やかで、特に「長岡の花火は八年ぶり位だけれど、そんなに凄いの？」と言いつつ帰ってきた二番目のお兄ちゃん「ヤー、これは凄いは！」と少々興奮気味でした。

ニヤーン！

編集 琵琶湖朝四時

湖畔ではセキユリ、空には撮影用のリモコン操縦のヘリ。湖上では巨大のプラットホームのスタッフが準備に忙しそうだ。賑やかな応援も始まった。放送席にはアナウンサーとゲストも準備OK。六時半プラットホームから一番機が静かに離れてゆく。ここは鳥人間コンテストの会場です。

二年前に同級生西脇君の長男涉君が東北大学に入学しました。その涉君は、ジェット戦闘機のパイロットへの憧れもあり、大学入学と同時に鳥人間クラブへ入部なのです。ジェット戦闘機乗りには反対の親もこちらは大なる誇り。「うちの長男は鳥人間のパイロットになる」と吹聴を始めました。涉君も自転車を購入し、仙台・長岡間を往復の努力。「本場にパイロットになつたら琵琶湖まで応援に行くよ」と言ってきた手前、パイロットに決まれば約束は守らなければなりません。西脇家一族郎党と我々親の遊び仲間が彦根に集合したわけです。

涉君が漕ぐ人力の飛行機が順調に飛んで次第に視界から消えてゆく。十八キロ飛んでそのまま進むかUターンして戻るか。涉君はUターンを選択、果たして戻つて来る体力は...。目を凝らすとプロペラが太陽の光にキラッと反射するのが微かながら徐々に徐々に、しかし確実に視えて来る。皆が息を呑む中、機体は大きく目の前に現れ着水する。大歓声と拍手と涙。一時間五十分の大きな驚きと感動でした。

放送は九月十五日 月曜日(敬老の日)午後七時より。興味のある方はぜひご覧ください。

高橋 潔

お便り原稿用紙

季刊誌では、増信徒・読者の皆さまと、こいっしょに誌面をつくりながら、コミュニケーションを深めたいと思います。ハガキまたはお手紙、ファックスなどで、お気軽にお便りをお寄せください。お待ちしております。

原稿の例

- 思い出話／ご家族、ご先祖、お寺の思い出話など。
- 私に言わせて／家事や子育てのお話、身近な出来事など。
- 教えてください／仏事のしきたりや疑問(編集部や住職がお答えします)など。
- 嬉しい・楽しい嬉しかったこと、楽しかったこと、悲しかったこと、怒ったこと。